

## 2019年度 重点取組と達成状況（最終評価と学校関係者評価） 2020/3/23

重点取組	達成状況	課題の改善策	評 定
<p>○ 週4回8：45からの15分間全校で実施している「朝学」の内容を、児童の実態に応じて工夫していく。</p> <p>○ 低中高学年よりそれぞれ授業公開を実施し、研究主題に沿った授業研究を深める。</p>	<p>○ 朝学習は、繰り返しの学習が有効な漢字や計算練習を中心に、語句調べ、音読などを取り上げた。基礎基本の定着をめあてに計画的に取り組んでいる。</p> <p>○ 2年（道徳）、4年（社会）、5年（社会）で授業公開を行った。研究協議では県指導主事を講師に研修を深めた。</p>	<p>○ 基礎基本の確実な定着を図るための指導をさらに充実させる。授業公開・研究協議の持ち方を工夫しながら、全ての教職員の授業力向上を図ってきたい。</p>	B
<p>学校関係者評価</p> <p>○ 児童アンケートにおいて「授業がよく分かる」の回答が高く、教育活動が効果的に進められている。</p> <p>○ 朝学習での語句調べや音読などの取組を継続・充実させることは、基礎基本を定着させるうえで効果的である。</p>			
<p>○ 校内研究教科を「特別の教科 道徳」とし、研修を深める。（考え議論する道徳、主体的・対話的で深い学びの充実）</p> <p>○ 主体的な学び、学び合いのある授業の工夫に取り組む。（めあての意識化、学びの焦点化、振り返りの設定）</p>	<p>○ 研究教科を道徳科とする3か年計画の1年目として、児童の道徳の授業に関するアンケートを実施し、その結果から児童の課題について教職員で共有することができた。</p> <p>○ 児童の課題をふまえ、道徳科の授業をどう展開するのかについては、十分な研修には至らなかった。学年ごとでの教材研究は活発に行われ、ワークシートの工夫や発問の検討など、学びあいの場面が多くみられた。</p>	<p>○ 本年度実施のアンケート結果（書くことが苦手・自分のことを伝えるのが苦手）をふまえて、児童が意欲的に自分の考えを表現できる道徳（考え議論する道徳）の取組を工夫する。</p> <p>○ 道徳科における「書く活動」や「表現活動」についてのアンケートを実施し、取組の成果を確認する。</p>	B
<p>学校関係者評価</p> <p>○ 自分の考えを書いたり話したりすることを苦手に感じている児童は、自分のことを肯定的に捉えられない児童と重なっているのではないかと、自分の考えをもち適切に伝える力や、相手の考えを受け止め自分の考えを深める力は、社会で求められている力である。指導の充実を望む。</p>			
<p>○ 効果的な指導法や教材を探るため、授業を互いに見せ合ったり、市教振 に積極的に参加したりして、授業力の向上を図る。</p>	<p>○ 市教振の取組が3年目を迎え、市内教職員の横のつながりのなかで学びあう機会となっている。授業を通して実践 を交流することで、さらに授業力の向上を図りたい。</p>	<p>○ 授業実践の交流を日常的に行えるよう工夫を図り、授業力向上の取組を充実させたい。</p>	B
<p>学校関係者評価</p> <p>○ 参観した授業や行事を通して、教職員の行き届いた指導を感じる。教職員相互の日常的な学びあいの姿勢は、今後も継続してもらいたい。</p>			
<p>○ 児童に関する情報を共有するため の会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図る。</p> <p>○ 生活管理指導表を提出した保護者と面談し、注意事項を確認する。</p> <p>○ 命を守る行動を身に付けるため、避難訓練を毎学期に行う。緊急下校訓練・緊急時引渡訓練・着衣水泳指導・薬物乱用防止教室・防犯教室・交通安全教室・ネットスマホ安心安全教室をそれぞれ実施する。</p>	<p>○ 月1回の子ども部での情報交換は取組として定着している。本校の生徒指導上の課題を、学校全体で共有しながら共通認識の上で統一感ある指導を効果的に進められるように、子ども部を中心とした体制整備を進めたい。全職員での児童理解のための会議を3回実施。</p> <p>○ 生活管理指導表を提出した保護者との面談を年度初めに実施し、その後も状況の変化に応じて適時面談をしながら対応している。</p> <p>○ 本年度より給食におけるアレルギー疾患対応の除去食の提供が始まり、食物アレルギーの児童に対する対応にはこれまで以上に配慮しながら進めている。</p> <p>○ 避難訓練（火災）（地震）（不審者）・緊急下校訓練・着衣 水泳指導・防犯教室・交通安全教室・薬物乱用防止教室・ネットスマホ安心安全教室を実施。保護者参加による災害時引き渡し訓練を実施。職員研修として不審者対応訓練を行った。</p>	<p>○ 生活面・健康面・アレルギー対応等、配慮を要する児童が多く、保護者との連携が不可欠である。保護者と信頼関係を結びながら、協力体制を一層強めていく必要がある。</p> <p>○ 命を守る行動を身に付ける取組については、児童の発達段階に応じて、計画的に継続して取り組む必要がある。ネットスマホ安心安全教室の実施学年の検討や、災害時 引き渡し訓練の継続実施等、児童を取り巻く社会の変化を見据えながら、取組の内容について検討してきたい。</p> <p>※ 『係小交通安全 はひふへほ』  は：端を通り、広がって歩かない  ひ：左・右・左を見て信号を守って道をわたる  ふ：ふらふら寄り道せず、まっすぐ帰る  へ：ヘルメットを着用し、自転車に乗る  ほ：歩道を歩き、横断歩道を渡る</p>	A

	<p>○毎月の月初めを「交通安全を呼びかける日」と設定し、年間を通じて、『係小交通安全 はひふへほ』を児童に指導した。</p>	
<p>学校関係者評価</p> <p>○個々それぞれの課題を抱え、様々な実態の児童がいる中で、個に応じた対応を求められる教職員の負担は大きい。</p> <p>○登下校中の様子を見守る中で、気になる行動があるときは、地域の大人の一人として声かけや注意をしている。挨拶の様子を見ていても、見知らぬ大人に声をかけられても反応しないようにしつけられている児童もいるのではないかと感じる。日頃から、地域と学校とのつながりを強めていくことが、児童にとっての安心・安全につながる。</p>		
<p>○生活目標（毎学期）を具体的なめあてとともに掲げ、取組を進める。</p> <p>○異年齢交流の中心になる高学年児童がふれあいタイムの振り返りノートを記入する機会を20回設け、自己の成長を確認したり、よさを認める機会とする。</p>	<p>○生活の重点取組について、昨年度設定した具体のめあてを活かしながら、児童の主体的な取組を、児童会・委員会と連携して進めた。引き続き、具体的な取組を工夫していきたい。</p> <p>○異年齢集団のリーダーである高学年は、ふれあいタイムの実施ごとに振り返りノートの記入を進めてきた。自分の活動を振り返ることで、自己の成長を確認し、自己有用感を育てることにつないでいきたい。</p>	<p>○児童の自己有用感・自己肯定感を高める取組として、さらに充実を図る必要がある。児童が自分の頑張りを認められたと実感できる場の設定や取組の工夫を進めていきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>
<p>学校関係者評価</p> <p>○自己肯定感や自己有用感を実感させるのは難しい。学校を代表するような活動を育て、発信することで、頑張りを認められる機会を意図的につくる必要があるのではないか。</p>		
<p>○年間を通じて外部の団体等による指導を受ける機会を設け、様々な立場の人々との出会いの中で体験的な活動の充実を図る。（キャリア教育としての意義）</p>	<p>○各学年で外部団体や地域の方々等による出前授業の活用を積極的に進めた。また、校外での見学や学習も効果的に実施し、体験的な活動の充実を図った。</p>	<p>○体験を通して学ぶことの教育的効果は大きい。今後も外部団体や地域の方々との協力を得ながら進めていきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>
<p>学校関係者評価</p> <p>○英語教育やICTを活用した新しい授業の取組など、今後の児童の成長に期待がもてる。地域や関係機関との連携をさらに深めて、今後も多様な体験学習を充実させてほしい。</p>		
<p>○学級活動での話合いの充実を図るとともに、クラブ活動・委員会活動・ふれあいタイムで話合いの機会を積極的に設ける。</p> <p>○学級での話合いをうけて児童会代表委員会を5回行う。学校生活の充実と向上のための諸課題を取り上げ、協力してその解決を図る。</p>	<p>○学級活動、クラブ活動（9回）、委員会活動（15回）、ふれあいタイム（21回）で話合いの機会を意図的、積極的に設けた。全校朝会で委員会発表の場を設け、児童の主体的な活動につながるよう取り組んだ。</p> <p>○代表委員会は5回実施。議題を学校生活の向上や学校行事にかかわる内容に設定することで、学級での話合いが活発に行われ、児童の取組がより主体的なものとなった。</p>	<p>○取組も定着し、目標をほぼ達成しつつある。児童の自発的、自主的な取組としてさらに充実させていきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>
<p>学校関係者評価</p> <p>○大勢で話し合っって物事を進めていくには、時間も手間もかかるが、より良い社会生活をおくるうえでは大切な力である。大事な学びの場として、今後も引き続き大切にしてほしい。</p>		
<p>○よりよい集団をつくる自主的態度を育成するため、集会活動の活性化を図るとともに、クラブ活動を9回実施する。</p> <p>○異年齢交流のためのふれあいタイムを26回実施し、目的を共有し協力して取り組むことで、互いを認め合い自己有用感を味わう機会とする。また、高学年児童にリーダーとしての資質を養う。</p>	<p>○目的やめあてを明確にし、児童の主体的な活動による集会活動に取り組んだ。ロング集会3回（全校オリエンテーリング・長縄大会・6年生を送る会）、ショート集会4回（1年生を迎える会・縦わり班発足式・色発足式・オリエンテーリング表彰式）実施。</p> <p>○委員会活動として全校朝会のなかでの発表の取組も積極的に行った。（生活向上委員会啓発活動・図書委員会ビブリオバトル・保健委員会啓発活動）</p> <p>○ふれあいタイムは21回実施。児童の間でも学年をこえた縦のつながりの意識が育ってきている。本校の特徴的な取組としてさらに充実を図りたい。</p>	<p>○取組も定着し、目標をほぼ達成しつつある。児童の自発的、自主的な取組としてさらに充実させていきたい。</p> <p style="text-align: right;">B</p>
<p>学校関係者評価</p> <p>○縦割り活動や委員会の取組は、例年、保護者アンケートでも高く評価されている。行事に参加しても、児童たちが自分の役割を知り、みんなと協力して頑張っていることがよく分かる。学校の強みとして、引き続き、今後も積極的な取組を期待する。</p>		

<p>○体力運動能力テストを全学年（延23種目）で実施し、結果分析をもとに、効果的な「体づくり運動」の取組を工夫して進める。</p> <p>○体力向上推進コーディネーター派遣事業（H30）を通しての学びを活かし、体力・運動能力向上の取組を工夫する。</p> <p>○各学期に全校児童による体力向上イベントを実施する。</p>	<p>○体力運動能力テストを全学年、のべ23種目で実施した。</p> <p>※全国体力・運動能力、運動習慣等調査（対象5年）より</p> <p>「運動やスポーツをすることは好きですか」 男子：89.1 女子：91.8</p> <p>「体育の授業は楽しいですか」 男子：92.6 女子：91.8 （数字は肯定的な回答を示した割合%）</p> <p>○学期ごとに全校児童による体力向上イベントを、体育委員会が中心となって計画、実施した。（チャレンジスポーツ・長縄大会・運動集会）</p>	<p>○体力づくりの取組は、今後も年間を通じて計画的に継続して進めていく必要がある。児童会や委員会活動とも連携し、児童がすすんで運動に取り組めるような企画を工夫し実践していきたい。</p>	<p>B</p>
<p>学校関係者評価</p> <p>○地域では、外遊びをする子供たちの姿を見ることが少なくなっている。児童の意見を生かして、工夫を凝らした体力向上イベントの実施は意義深い。</p> <p>○保護者アンケートでは、体力向上の取組の理解が低い結果が出ている。校内の取組の紹介を積極的に進める必要がある。</p>			

2019年度 重点目標と達成状況（中間評価） 2019/10/31

重点取組	達成状況	児童アンケートから	保護者アンケートから	評定
<p>○週4回8：45から全校で実施している「朝学」の内容や家庭学習の課題について、児童の実態に応じて工夫していく。</p> <p>○低中高学年よりそれぞれ授業公開を実施し、研究主題に沿った授業研究を深める。</p>	<p>○朝学習は、漢字や計算練習など基礎基本の定着をねらいにして取り組んでいる。家庭学習の定着については保護者の協力も得ながら進めていきたい。</p> <p>○2年（国語）、3年（道徳）、6年（道徳）で授業公開を行、研究協議では県指導主事を講師に研修を深めた。</p>	<p>「学校は楽しい」 +88.2</p> <p>「授業はよく分かる」 +92.6</p> <p>「分からないことは、先生やクラスの人にたずねることができる」 +84.3</p> <p>※アンケート欄の+の後の数字は「そう思う」「だいたいそう思う」の合計ポイント数</p>	<p>「子どもたちが楽しく生活が送れるよう配慮している」 +92.6</p> <p>「分かりやすい学習となるよう努めている」 +83.3</p> <p>※アンケート欄の+の後の数字は「そう思う」「だいたいそう思う」の合計ポイント数</p>	<p>B</p>
<p>○校内研究教科を「特別の教科 道徳」とし、研修を深める。（考え議論する道徳、主体的・対話的で深い学びの充実）</p> <p>○主体的な学び、学び合いのある授業の工夫に取り組む。（めあての意識化、学びの焦点化、振り返りの設定）</p>	<p>○道徳の授業公開に向けて、学年での教材研究が深められた。その中で、同じ指導者が学年すべての学級で授業をする取組もあり、児童の実態に応じた指導の工夫について研修を深めた。</p> <p>○授業におけるめあての明示、振り返りの工夫、ペアやグループ学習について意識的に取り組んでいる。</p>	<p>「自分の考えたことを書くことができる」+79.5</p> <p>「自分の考えたことを話すことができる」+69.4</p>	<p>「書く・話すなど考えを表現する力を高めようとしている」 +74.0</p>	<p>B</p>
<p>○効果的な指導法や教材を探るため、授業を互いに見せ合ったり、市教振に積極的に参加したりして、授業力の向上を図る。</p>	<p>○市教振算数部会の授業公開（4年・5年）を行い、研修した。</p> <p>○市教振各部会の授業公開には、教員がそれぞれ積極的に参加している。</p>			<p>B</p>
<p>○児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図る</p> <p>○生活管理指導表を提出した保護者と面談し、注意事項を確認する。</p> <p>○命を守る行動を身につけるため、避難訓練を毎学期に行う。緊急下校訓練、緊急時引渡訓練、着衣水泳指導、薬物乱用防止教室、防犯教室、交通安全教室、ネットスマホ安心安全教室をそれぞれ実施する。</p>	<p>○子ども部での情報交換を月1回実施している。課題は学校全体で共有して、共通理解の上で指導にあたっている。全職員で児童理解のための会議を2回実施。</p> <p>○生活管理指導表を提出した保護者との面談を年度初めに実施し、対応について確認した。</p> <p>○避難訓練（火災）（地震）・緊</p>	<p>「整理整頓ができています」 +73.0</p> <p>「学校やクラスの約束を守っている」 +89.0</p>	<p>「身体面をはじめ、配慮の必要な児童のことを考えた教育活動を行っている」 +77.2</p> <p>「学校の施設・設備は安全や衛生に気をつけて管理されている」 +78.0</p>	<p>B</p>

	<p>急下校訓練・着衣水泳指導・防犯教室・交通安全教室を実施。</p> <p>○保護者参加の緊急時引き渡し訓練を実施。地震発生時の避難訓練とあわせて実際の引き渡しを行った。</p>			
<p>○生活目標（毎学期）を具体的なめあてとともに掲げ、取組を進める。</p> <p>○異年齢交流の中心になる高学年児童がふれあいタイムの振り返りノートを記入する機会を20回設け、自己の成長を確認したり、よさを認める機会とする。</p>	<p>○「あいさつ」「廊下歩行」「掃除」を生活の重点取組として、児童の主体的な取組を児童会とも連携して進めている。</p> <p>○ふれあいタイムを計画的に実施。高学年は、異年齢集団でのリーダーとして、ふれあいタイムの実施ごとに振り返りノートの記入をしている。</p>	<p>「学校でよく挨拶をしている」 +88.4</p> <p>「廊下を正しく歩いている」 +73.9</p> <p>「クラスの人と仲良くしている」 +94.0</p>		B
<p>○年間を通じて外部の団体等による指導を受ける機会を設け、様々な立場の人々との出会いの中で体験的な活動の充実を図る。（キャリア教育としての意義）</p>	<p>○各学年で外部の団体や地域の方々等による出前授業の活用を積極的に進めている。</p>		<p>「体験的な学習を積極的に取り入れている」 +81.1</p>	B
<p>○学級活動での話し合いの充実を図るとともに、クラブ活動・委員会活動・ふれあいタイムで話し合いの機会を積極的に設ける。</p> <p>○学級での話し合いをうけて児童会代表委員会を5回行う。学校生活の充実と向上のための諸課題を取り上げ、協力してその解決を図る。</p>	<p>○学級活動、クラブ活動、委員会活動、ふれあいタイムで話し合いの機会を意図的、積極的に設けている。</p> <p>○代表委員会の議題は、学校生活のめあてや行事のめあて、自分たちの学校生活向上に関することとし、学級会活動と連携して活動を進めている。</p>	<p>「人の話を最後までよく聞いている」 +85.3</p> <p>「自分の仕事を最後までやり遂げる」 +90.1</p>	<p>「ちがいを認め合う、自分も仲間も大切にするなど心を育てる教育に取り組んでいる」 +74.0</p>	B
<p>○よりよい集団をつくる自主的態度を育成するため、集会活動の活性化を図るとともに、クラブ活動を9回実施する。</p> <p>○異年齢交流のためのふれあいタイムを年間26回実施し、目的を共有し協力して取り組むことで、互いを認め合い自己有用感を味わう機会とする。また、高学年児童にリーダーとしての資質を養う。</p>	<p>○目的やめあてを明確にしなが、児童の主体的な活動による集会活動に取り組んでいる。集会での委員会の発表にも熱心な取組がみられる。</p> <p>○ふれあいタイムを水曜日に計画的に実施している。OL集会や長縄大会は、異年齢集団で目的を共有しながら協力して取り組む機会となっている。</p>	<p>「相手の気持ちを考えて行動している」 +86.6</p> <p>「クラスの人から注意されたとき素直に聞ける」 +83.2</p> <p>「クラスの人が困っていると、きすすんで助けたり励ましたりできる」 +86.4</p> <p>「自分にはよいところがある」 +76.3</p> <p>「自分は人の役に立っていると感じたことがある。」 +71.5</p>	<p>「縦わり活動など、有意義な活動や行事が行われている」 +95.3</p>	B
<p>○体力運動能力テストを全学年（延23種目）で実施し、結果分析をもとに、効果的な「体づくり運動」の取組を工夫して進める。</p> <p>○体力向上推進コーディネーター派遣事業（H30）を通しての学びを活かし、体力・運動能力向上の取組を工夫する。</p> <p>○各学期に全校児童による体力向上イベントを実施する。</p>	<p>○体力運動能力テストを全学年、のべ23種目で実施した。実施の際には連携事業を活用し、校区中学校の教諭による指導を行った。</p> <p>○学期ごとに全校児童による体力向上イベントを計画、実施している。（チャレンジスポーツ・長縄大会）</p>		<p>「体力向上の取組を行っている」 +60.5</p>	B

## 2019年度 具体的達成目標 2019/5/10

教育目標	めざす子ども像	重点課題	具体的な達成目標と評価指標
考えをみがく	自分の考えを持つ子	①基礎的・基本的な内容の	朝学習の充実、家庭学習の定着を図り、児童の実態に応じた取

	<p>考えをまとめ表現する子</p> <p>めあてを持って考えを深める子</p>	<p>確実な 定着を図るため、指導法の工夫に取り組む。</p> <p>②他者と交流しながら考えを深める力を着実に育てる。</p> <p>③筋道を立てて考え表現する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める。</p>	<p>組を工夫してすすめる。</p> <p>低中高学年よりそれぞれ授業公開を実施し、授業研究を深める。</p> <p>校内自研究教科を特別の教科道徳とし、研修を深める（考え議論する道徳、主体的・対話的で深い学びの充実）。</p> <p>主体的なまなび、学び合いのある授業の工夫に取り組む（めあての意識化・学びの焦点化・振り返りの設定）。</p> <p>効果的な指導法や教材を探るため、授業を互いに見せ合ったり、市教振に積極的に参加したりして、授業力の向上を図る。</p>
<p>心をみがく</p>	<p>ルールとマナーを守る子</p> <p>自分の仲間を大切にする子</p> <p>互いのちがいを認め合う子</p>	<p>④児童に関する課題を共有し、全職員でルールの徹底とマナーの育成に取り組む。</p> <p>⑤自己の成長を振り返り、よさを認め、実感できる取組を充実させる。</p> <p>⑥多様な交流・体験的学習を通して、互いを理解し認め合う大切さを学ばせる。</p>	<p>児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図る。</p> <p>生活管理指導表を提出した保護者全員と面談し、注意事項を確認する。</p> <p>命を守る行動を身につけるため、避難訓練を各学期に行う。緊急下校訓練・緊急時引き渡し訓練・着衣水泳指導・薬物乱用防止教室・防犯教室・交通安全教室・ネットスマホ安心安全教室をそれぞれ実施する。</p> <p>異年齢交流の中心になる高学年児童がふれあいタイムの振り返りノートを記入する機会を20回設け、自己の成長を確認したり、よさを認める機会とする。</p> <p>年間を通じて外部の団体等による指導を受ける機会を設け、様々な立場の人々との出会いの中で体験的な活動の充実を図る（キャリア教育としての意義）。</p>
<p>仲間とみがく</p>	<p>みんなと話し合い解決する子</p> <p>人とかかわる喜びを持つ子</p> <p>みんなとすすんで運動する子</p>	<p>⑦話し合い活動を活性化し、自主的・自発的に問題を解決する力を伸ばす。</p> <p>⑧集団でのかかわりの場を通して、社会性を育て、自己有用感を高める活動を工夫する。</p> <p>⑨「体づくり運動」の充実と、体力・運動力向上の取組をすすめる。</p>	<p>学級活動での話し合いの充実を図るとともに、クラブ活動・委員会活動・ふれあいタイムで話し合いの機会を積極的に設け、協働的な課題解決の力を育てる。</p> <p>よりよい集団をつくる自主的態度を育成するため、集会活動の活性化をするとともに、クラブ活動を9回実施する。</p> <p>異年齢交流のためのふれあいタイムを年間26回実施し、目的を共有し協力して取り組むことで、互いを認め合い自己有用感を味わう機会とする。高学年児童にリーダーとしての資質を養う。</p> <p>体力運動能力テストを全学年、延べ23種目で実施し、その結果分析をもとに、効果的な「体づくり運動」の取組を工夫してすすめる。</p> <p>体力向上推進コーディネーター派遣事業（H30）を通しての学びを活かし、体力・運動能力向上の取組を工夫する。</p> <p>各学期に全校児童による体力向上イベントを実施する。</p>